

# 採用前から教師力向上

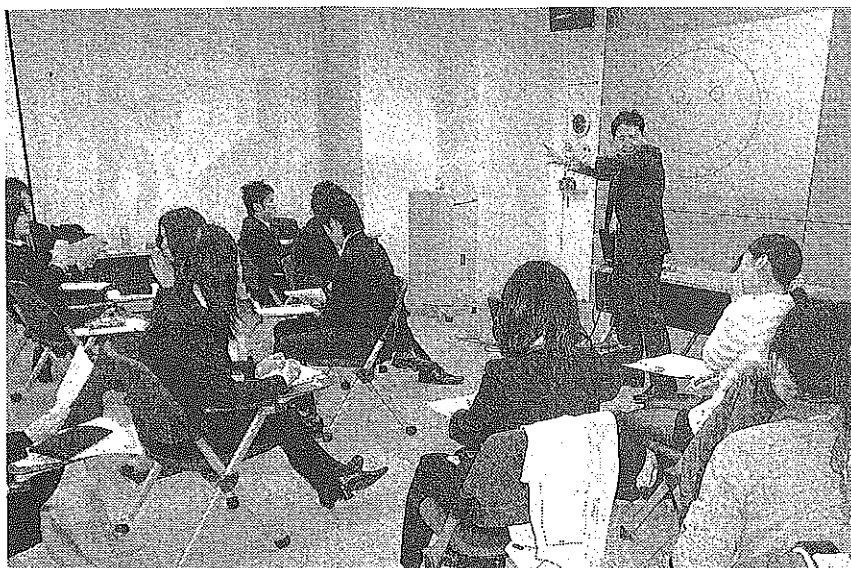
教師の資質や技量が問われ続けている。学級崩壊やいじめへの対処、良識を欠くテスト問題や指導、教師のうつ病など問題が山積する中、教員志望者を対象に、実践力アップを図る講座を開講する教育委員会が増えている。

供との信頼関係が無ければ注  
意してはダメ」などのアドバ  
イスに、受講者は意欲的に発

東京・三鷹市

東京都三鷹市教育委員会は、講師の一人は「先生の2006年から、NPO法人「三鷹ネットワーク大学」と共同で「みたか教師力養成講座」を年2回行っている。教員採用試験を目指す人が生徒、現役のベテラン教師や教育学者らが、教師としての心得、模範授業や採用試験対策など、15回の講義や実習を行う。

特に、発声練習や模擬授業など、実践的な内容が好評



みたか教師力養成講座の様子。受講生の姿勢は意欲的だ  
—東京都三鷹市

## 志望者対象に講座 現役が指導、模擬授業も

言しメモを取る。  
2人1組になり、1人が言

### 教育の広場

葉で説明する図の形を、もう1人が描く実習では、難しさに笑いが出る。「自分のメッセージが相手にいかにずれて伝わるか」を実感させるのが狙いという。

市内の小中学校に出向き、実際に子供たちに接するインターンシップも体験。受講者の女性(21)は「教師になれば授業のほか、学級運営や保護者との関係などにも対応しないとならない。大学の教職課程の授業だけでは、対応が難しいと感じる。この講座で、手本や実践的なアドバイスを得られて助かる」と話す。

11月、都内で開かれた教員養成についてのシンポジウム。教育学者から「大学はただ決められた単位数の講義を行うだけで、一人前の教師になることを学生に委ねてきたのではないか」「今の教員養成システムでは不十分。もっと高いレベルを要求してほしい」などの声が多く聞かれた。

文部科学省は教員養成の主流を、大学の学部から大学院へと徐々にシフトさせたい考えだが、当面は三鷹市のような自治体ごとの努力が、重要な役割を果たしそうだ。

各地で取り組み  
「養成塾」を実施

教員免許取得に必要な教育実習は、2〜4週間。教育現場では「それでは足りない」という声が多い。団塊世代が大量に退職したため、新人教師がすぐに担任となる場合もあり、実践力の強化が求められている。

そのため、各地の自治体が

指導力のある教師養成を目指す講座を開設。2004年にスタートした東京都の「東京教師養成塾」が初めてのケースで、塾生は都の教員採用試験を特別枠で受験し、合格すれば都内の公立小に優先的に赴任する。大阪市、名古屋市、京都市、北海道などでも教師養成塾が実施されている。